



第7回（2020年6月4日）から  
計4回

## 現代中国論 A

—後期鄧小平時代（1992年～2012年）—

Ⅱ. 胡錦濤時代（2002-2012年）

— 九龍治水の「集団指導体制」

1

### <構成>

1. 導入
2. 党大会の開催と方向性
3. 継続性を保証する/強要する制度設計
4. 経済大国中国の誕生
5. 社会の不安定化と調和社会の提起
6. 事例研究：薄熙来（はく・きらい）事件
7. 強硬外交への転換
8. 兩岸関係は対立から改善へ

2

## 1. 導入：「九龍治水」の集団指導体制？

### (1) 「九龍治水」とは？

- ①第16期は胡錦濤、吳邦国、温家宝、賈慶林、曾慶紅、黄菊、吳官正、李長春、羅幹
- ②第17期は胡錦濤（総書記）、吳邦国（全人代委員長）、温家宝（総理）、賈慶林（政協主席）、李長春（イデオロギー）、習近平（党務）、李克強（副総理）、賀国強（紀律検査）、周永康（司法公安）

3

(2) 「集団指導」とは、「組織や国家において独裁を防ぐために、指導者たちが合議制によって策定を行い、指導の民主制を維持しようとする方式。スターリンの死後（1953年）、ソヴィエトで確立された指導原理もその一つ」

（阿部齋他『現代政治学小辞典』（新版）  
有斐閣、1999年、204ページ）



4

(3) 胡錦濤時代は集団指導体制か？

→ 違うのではないか？

(4) 「九龍治水」に説得力を与える事象とは？

①2004年9月まで党中央軍事委員会主席になれ

なかった胡錦濤

②最後まで「核心」になれなかった胡錦濤

③引退後の「周永康事件」

5

## 2. 党大会の開催と方向性

(1) 第16回党大会 (2002.11)

①政治報告 (江沢民)

→ 階級政党の国民政党化 (一部既述)

→ 「中国共産党は中国人民と中華民族の  
先鋒隊である」

→ 「“3つの代表” という重要思想」

→ 江沢民色の反映

→ 正当化される「資本家」の入党、  
党内「資本家」の慰撫

→ 2020年のGDPを2010年の二倍に

6

②新総書記に既定路線通り胡錦濤が就任

- 最高指導部は胡錦濤、吳邦国、温家宝、賈慶林、曾慶紅、黄菊、吳官正、李長春、羅幹（計9名。以上は序列順）
- 党の最高指導部はトップ4+アルファ。序列順に、総書記（国家主席、中央軍事委員会主席を兼任）、全国人民代表大会委員長（国会議長）、総理、全国政治協商会議主席（統一戦線組織の長）、その他（国家副主席、常務副総理、中央規律検査委員会書記、イデオロギー担当等）

7

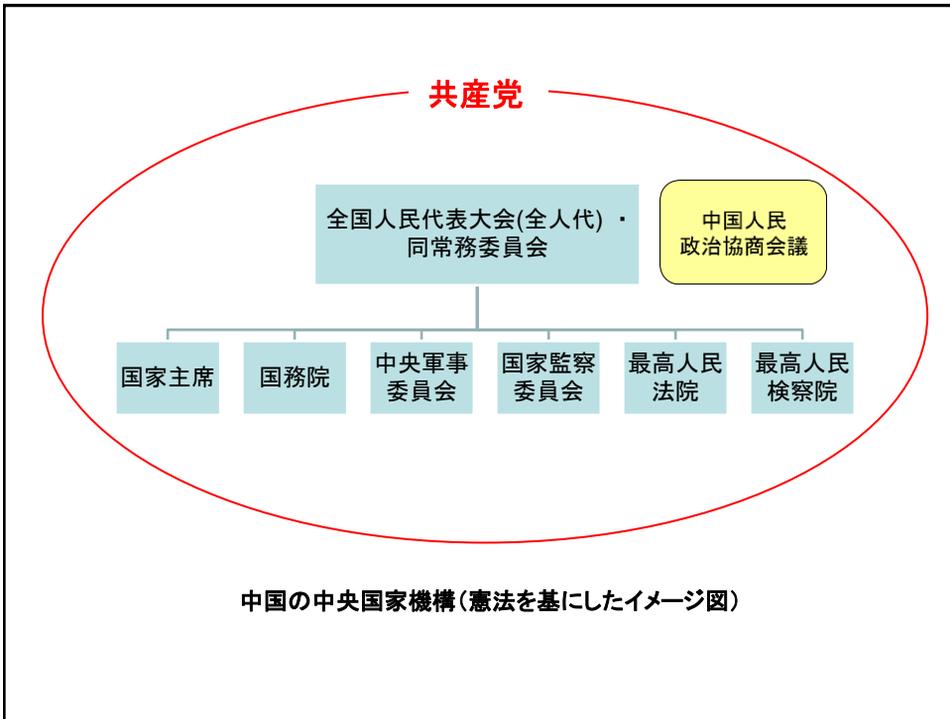
補充

＜中国の統治システム：党国家体制＞

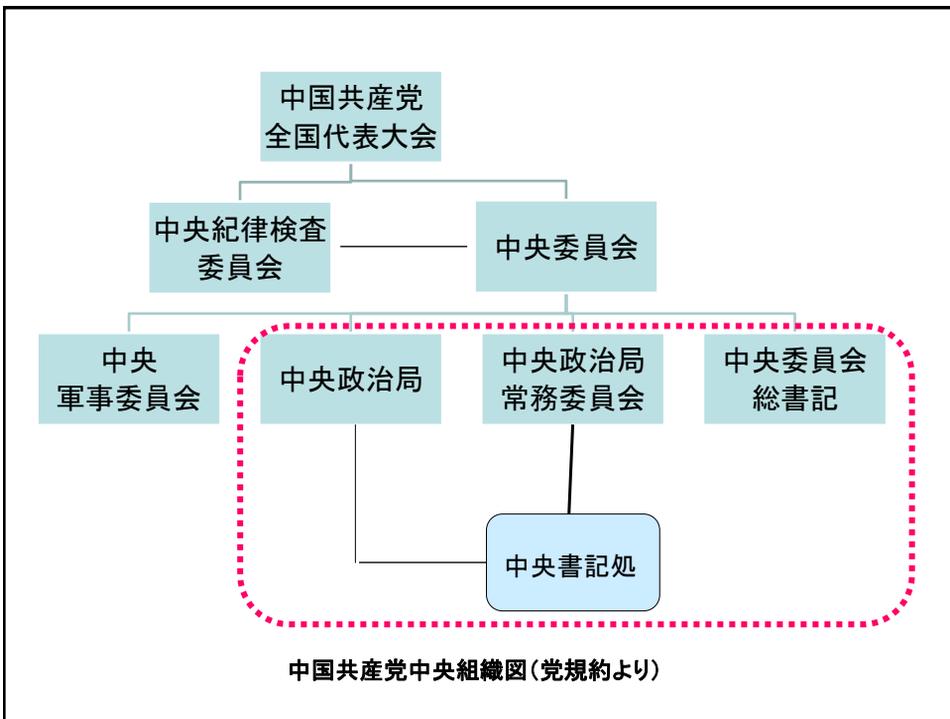
（党国（家）体制とは？）

1. 中国共産党（トップは総書記）
- 2 or 3. 全国人民代表大会  
（トップは委員長）
- 3 or 2. 國務院（トップは総理）
4. 全国政治協商会議（トップは主席）  
（全国政治協商会議とは？ その役割は？）

8



9



10

## 胡錦濤略歴

- 1942年 安徽省に生まれる
- 1959年 清華大学入学（水利システム専攻）
- 1965年 同大学で研究活動、政治指導員
- 1968年 水利電力部
- 1974年 甘肅省での勤務開始（建設委員会副主任、  
共産主義青年団（共青団）甘肅省委員会書記）（共産主義青年団とは？）
- 1982年 共青団中央書記処書記、全国青年聯合会主席（全国青年聯合会とは？）
- 1984年 共青団中央書記処第一書記

11

- 1985年 貴州省党委員会書記
- 1988年 チベット自治区党委員会書記
- 1992年 中央政治局常務委員（～2012. 11）  
中央書記処書記（～12. 11）
- 1993年 中央党校校長（～02. 12）
- 1998年 国家副主席（～03. 3）
- 1999年 党中央軍事委員会副主席（～04. 9）
- 2000年 国家中央軍事委員会副主席（～05. 3）  
→ 党と国家という二つの軍事委員会。  
何が同じで、何が違う？

12

2002年 党総書記（～2012年11月）  
2003年 国家主席（～2013年3月）  
2004年 党中央軍事委員会主席（～2012年  
11月）  
2005年 国家中央軍事委員会主席（～2013年  
3月）

13

**（2）第17回党大会（2007.10）**

**①政治報告（胡錦濤）：**

**深刻化する社会矛盾や危機への対応**

- **胡錦濤色の反映（後述）**
- **「科学的発展観」**
- **「社会主義の調和のとれた社会」**
- **2020年の国民一人当たりのGDPを  
2000年の四倍に**

14

②新指導部は、胡錦濤、呉邦国、温家宝、  
賈慶林、李長春、習近平、李克強、賀国強、  
周永康

→ 次期総書記最有力候補は習近平

(1953.6生れ)

→ 予想外の展開。しかし、多くの政治  
資質あり（太子党・紅二代、下放、  
地方勤務、解放軍）

（文革期の下放とは？）

（太子党、紅二代とは？ 両者は  
どう違う？）

15

### 3. 継続性を保証する/強要する制度設計

#### (1) 第16回党大会での政治報告

→ 引退する総書記（江沢民）が行い、将来  
5年間の政策、方向性を規定

→ 胡錦濤色が出るのは第二期

#### (2) 人事

①引退する総書記らが一定の影響力

②江沢民の完全引退は2005年3月

→ 胡錦濤は、2004年9月まで党中央軍事  
委員会副主席、2005年3月まで国家中央  
軍事委員会副主席（つまり、胡は…？）

16

#### 4. 経済大国中国の誕生

##### (1) 堅調な経済発展

→ 2003年、一人当たりGDPが1000ドル突破

##### (2) WTO加盟で、海外進出し影響力を拡大する企業が出現

→ 江沢民、2002年の第16回党大会で、「引進來」（技術や投資を積極的に受け入れる）と「走出去」（海外に打って出る）を結びつける戦略提起

→ 外交政策に関与する経済アクターが急増

17

##### (3) 高まる国際的地位

→ リーマン・ショック（2008.9）への対応（中国の採った対策は？）

→ 2010年、第二の経済大国に

##### (4) 「安定」成長へ（GDP成長率経年変化）

→ 9.1%（2002）、10.0%（03）、10.1%（04）、  
11.4%（2005）、12.7%（06）、14.2%（07）、  
9.7%（2008）、9.4%（09）、10.6%（10）、  
9.6%（2011）、7.9%（12）

18

## 5. 社会の不安定化と調和社会の提起

### (1) 共産党に募る危機意識（一部既述）

#### ①背景は、急激な経済成長と社会変化

- 2004年の憲法改正で、私有財産保護  
（「公民の合法的私有財産は侵されない」）
- 大衆の間に、権利意識発生

#### ②格差の拡大、汚職の蔓延、群体性事件など

- 2006年以降は発表されない集団抗議行動  
（群体性事件）の件数
- SARS（重症急性呼吸器症候群。後述）



19



- ※ 胡錦濤、「科学的発展観」提起（2003.10）
- ※ 胡錦濤、「和諧社会」（調和のとれた社会）を提起、「執政党としての地位は生来のものでも、永遠のものでもない」と発言（2004.9）

20

## (2) 問われる危機管理能力

### ①SARSの衝撃

→ SARSとは？ それによって何が起こったのか？ 党と政府の対応は？

### ②多難な2008年

→ 3月にチベット暴動、5月に四川大地震、  
8月に北京五輪、9月にリーマンショック

### ③薄熙来事件（2012.3。後述、スライドの後）

21



天安門広場（左は2002年5月3日、右は2003年5月5日）

22



王府井（2003年4月29日）

23



天安門広場（2003年5月5日）

24



前門（2003年5月5日）

25

## 6. 事例研究

### — 薄熙来（はく・きらい）事件 —

(1) 大物中央政治局委員の失脚

(2) 薄熙来略歴

1949年 7月	出生
1972年11月	北京市労働者
1978年 2月	北京大学入学（歴史学部）
1979年 9月	中国社会科学院院生（文学修士）
1982年 8月	中央書記処研究室、中央弁公庁 職員
1984年10月	遼寧省金県党委副書記

26

1988年 2月	大連市党委常務書記
1992年 8月	同市党委書記、代理市長
1993年 2月	同市長
1999年 8月	遼寧省党委常務委員、大連市 党委書記、同市長
2000年12月	同省党委副書記、同省代理省長
2001年 2月	同省長
2004年 2月	商務部長
2007年10月	中央政治局委員、商務部長
2007年11月	同委員、重慶市党委書記

(~2012年3月)

27

### (3) 薄熙来という人物

#### ①「太子党」、「紅二代」の代表格

- 父親の薄一波は中央政治局候補委員、中央顧問委員会常務副主任、国务院副総理の経歴。6.4天安門事件時の「八大長老」の一人
- 習近平より年上

28

## ②稀代のポピュリスト

- 大連市長時代
  - 女性警官騎馬隊設立
- 重慶市党委書記時代
  - 「打黒」（社会悪を撲滅せよ！）
  - 「唱紅歌」（革命歌を歌おう！）
  - 「打黒」と「唱紅歌」、何が問題視された？



2012年6月、講師が重慶を訪れた際の  
重慶市民の薄熙来評は？

29

## （4）失脚直前の出来事

- ①2012年2月9日、外交部報道官弁公室が「王立軍（薄熙来の右腕。市公安局長、副市長）が2月6日に在成都アメリカ総領事館に入り、翌日、同総領事館を出た。関係部門がこの件について調査を行っている」と発表
  - 部下が亡命を試み、失敗
- ②取り調べ過程で、薄熙来の妻が英国人を殺害したことが判明
- ③薄熙来裁判が始まる前に、王は反逆逃亡罪と職権乱用罪などで懲役15年、薄谷開来は故意殺人罪で2年の執行猶予付き死刑判決

30

**(5) 薄熙来への責任追及**

- ①2012年の全人代閉幕翌日（3月15日）に解任発表
- ②4月10日、党中央、「重大な紀律違反容疑のため、薄同志の中央政治局委員と党中央委員の職務を停止し、中央紀律検査委員会がその立案のために調査することを決定」と発表
- ③5月28日、中央紀律検査委員会、党籍はく奪を決定
- ④2013年8月第一審の後、10月25日の第二審で、収賄、汚職、職権乱用の罪で無期懲役確定

31

**(6) 事件のポイント**

- ①発生時期と習近平との関連
  - 胡錦濤から習にバトンが渡される直前
  - 習が取り締まり責任者だった可能性

32

## ②周永康が後ろ盾？

→ 胡錦濤第二期の2007年から2012年まで  
党中央政治局常務委員（中央政法委員会  
書記。党内序列第9位）。2014年7月、党  
中央は「重大な紀律違反」で調査開始、  
12月、党中央政治局、党籍はく奪と司法  
機関での処理を決定。2015年6月、無期  
懲役で結審

→ 「政法委員会」とは？ 組織としての  
大きな特徴は？

33

## <補充：最高指導部の役割分担>

1. 胡錦濤：総書記（党）、中央軍事委員会  
主席（軍）、国家主席（国家元首）
2. 呉邦国：全人代（国会）委員長
3. 温家宝：国務院（政府）総理
4. 賈慶林：全国政協（諮問機関）主席
5. 李長春：イデオロギー担当
6. 習近平：党務担当
7. 李克強：常務副総理（経済担当）
8. 賀国強：中央紀律検査委員会（風紀）書記
9. 周永康：中央政法委員会書記

34

## (7) 薄熙来事件からみる中国政治

### ①紅二代の華麗な略歴

→ 北京大学、党中央、大抜擢

### ②露骨な派閥・側近政治

→ 周永康、王立軍

### ③もみ消される家族の違法行為

→ 捜査過程で明らかになった妻による殺人

### ④中央と地方で異なる評価

→ 北京と重慶

### ⑤熾烈な権力闘争

→ 習近平と薄熙来

→ 似た境遇、異なる政治姿勢

35

## 7. 強硬外交への転換

### (1) 国際社会への柔軟な対応

#### ①第16回党大会 (2002)

→ 「世界の多極化を積極的に推進する」

#### ②第17回党大会 (07)

→ 「我々は、各国人民が手を携えて努力し、  
長期平和と共同繁栄の調和ある世界の  
建設を促すことを主張する」

→ 「中国脅威論」を意識した対応

↓

一方で、国力増大を受け、「韜光養晦」方針  
放棄への誘惑

36

(2) 「韜光養晦」の実質的放棄へ

①21世紀初頭、生まれ始めた大国意識（既述）

②中央外事工作会議開催（2006. 8. 21-23）

- 「国家の主権、安全保障及び発展がもたらす利益を維持する」ことを強調
- 同年末より、中国はインドが実効支配するアルナーチャル・プラデーシュ州に対する主権を改めて主張
- 海洋問題で、対日強硬姿勢に（後述）

37

③第11回駐外使節会議（2009. 7）

- 「韜光養晦を堅持し、なすべきことを積極的になす」。後段を強調

④COP15での温家宝の振る舞い（2009. 12）

⑤「核心的利益」の登場

（核心的利益論とは？ その登場背景は？）

38

(3) 起伏の激しい日中関係

①小泉靖国時代（～2006.9）

②「対日新思考」の提起（02.11）

→ 『戦略と管理』誌での「馬立誠」氏の主張  
とは？

③改革開放期、初の大規模「反日」デモ（05.4）

→ 発生の背景と中国政府の対応は？

④関係改善の転機となった安倍訪中（06.10）

→ 「戦略的互惠関係」のひな型

→ 首脳相互訪問で、2008年前半までは  
良好な関係

39

⑤温家宝首相来日（2007.4）

→ 中国の首相としては6年半ぶりの来日

→ 共同プレス発表

→ 「戦略的互惠関係」構築の具体化

→ 課題（東シナ海ガス田開発、拉致）

→ 中国首相初の国会演説

→ 中国国内で実況中継

（「国内」を対象とした理由は？）

→ 過去の侵略に対する謝罪を「積極的に  
評価」

→ 改革開放に対する日本と国民の支援  
を「永遠に忘れない」

40

- ⑥ターニングポイントとなった2008年
- 胡錦濤国家主席訪日 (2008. 5. 6-10)
  - 「第四の政治文書」作成
  - 四川大地震の発生 (08. 5. 12) と日本の救援隊 (次の写真。真ん中にご遺体。この写真を見て、中国の人々が感嘆した理由は？ 無茶苦茶な質問です。豊かな想像力を期待します)

41

- 東シナ海ガス田開発合意 (08. 6. 18)
  - その翌日から消極的対応
  - 日本の同意を得ずしての中国調査船の尖閣領海内進入事件 (08. 12. 8)
- ⑦尖閣諸島問題をめぐる二度の衝突 (2010. 9、2012. 9) で、正常化後最悪の関係に

42

#### (4) 海洋での米中覇権争いの開始

##### ①南シナ海への中国の進出

→ フィリピンからの米軍撤退（1992年）  
をきっかけに、中国の進出開始

##### ②米陸軍戦略大学、報告書『真珠の首飾り』 発表（2006.7）

→ 「真珠の首飾り」戦略とは？

##### ③オバマ米大統領、「アジア回帰」方針を 明確化（2011.11）

43

#### 8. 兩岸関係は対立から改善へ

##### (1) 民進党陳水扁、総統に再選（2004.3）

→ 陳水扁と呂秀蓮（現職） 50.11%  
連戦（国民党）と宋楚瑜（親民党）  
49.89%

↑

最後まで分からない台湾の選挙

44

①政治交流は停滞

→ 統一を目指す中国、独立を目指す民進党

②一方、経済面では、初の中台直行チャーター便就航(05. 1)

③連戦・国民党(野党)主席訪中(05. 4)

→ 分断以来初の国共首脳会談

→ これ以降、国民党は合作路線に

→ 民進党政権に圧力

45

④陳水扁の政治運営

→ 少数与党のため国会対策に苦慮

→ 強烈的な台湾アイデンティティーで、中国を刺激、「トラブルメーカー」

→ 2001年、1947年以来初のマイナス成長

→ 政権末期はスキャンダル続き

→ パプアニューギニア事件

→ 退任後、収賄などに問われ、2009年の第一審では無期懲役の判決。収監中の2013年6月に自殺未遂。その後体調悪化を受け、事実上の結審。近年、政治活動再開

46

(2) 国民党の返り咲き

→ 2008年総統選挙 (3.22) は、国民党と  
民進党の一騎打ちで、国民党圧勝

→ 国民党ペア (馬英九・蕭万長)

58.45%

民進党ペア (謝長廷・蘇貞昌)

41.55%

47

<知っててお得な台湾知識>

「3つの旗」比較

1. 「中華民国」国旗

2. 中国国民党旗

→ この旗から何がわかる？

3. 民主進歩党(民進党)旗

→ この旗から何がわかる？

48



国民党集会(2008年3月16日)

49



国民党集会(3月16日)

50



国民党集会(3月16日)

51



国民党集会(3月16日)

52



民進黨集會(3月16日)

53



民進黨集會(3月16日)

54



民進党集会(3月16日)

55



民進党集会(3月16日)

56



民進党集会(3月16日)

57

(3) 顕著な改善を見せた第一期馬英九政権  
(2008. 5-12. 5)

① 総統就任時のやりとり (2008. 5. 20)

- 馬英九：「台湾の主流民意は統一せず、  
独立せず、武力行使せず」（「3つ  
のノー」）
- 中国側：「台湾当局は、新たな情勢下で、  
兩岸関係の発展を促進するという  
積極的な願いを表明した」（5. 22）

58

②分断後初の与党トップ会談（2008. 5）

- 吳伯雄・国民党主席訪中
- 民間の位置づけである「两会」（台湾側は海峡交流基金会、中国側は海峡兩岸関係協会）協議再開で合意
- 台湾の国際社会進出への可能性

③約10年ぶりの两会協議（2008. 6）

- 7月からのチャーター便運航と大陸住民の台湾団体旅行解禁で合意
- 大陸から台湾への観光客（団体及び個人）は1年目は延べ38万人、5年目は延べ208万人

59

④「胡6点」（2008. 12. 31）

- 馬の勝利を受け、「兩岸関係の平和的發展」を提起
- 「祖国の平和的統一実現」のため、まずは「兩岸関係の平和的發展を確保する」とのロジック
- 「胡6点」の具体的内容は？

⑤台湾のWHO年次総会の参加（2009. 5）

- SARSでの「反省」  
（SARS時の中国の台湾への対応は？）
- 38年振りの国連関連組織への参加

60

⑥ECFA（経済協力協定）の締結（2010.6）

- 分断後、初の包括的協定
- 主な内容
  - 中国が優先的に輸入関税を引き下げる対象は539品目、台湾は267品目。2013.1.1段階でゼロに
  - 銀行、保険や医療などのサービス分野につき、台湾の中国市場への進出で合意

61

（4）2012年総統選挙（1.14）

①現職の国民党候補が勝利

- 国民党ペア（馬英九・吳敦義） 51.6%
- 民進党ペア（蔡英文・蘇嘉全） 45.6%
- 親民党ペア（宋楚瑜・林瑞雄） 2.8%

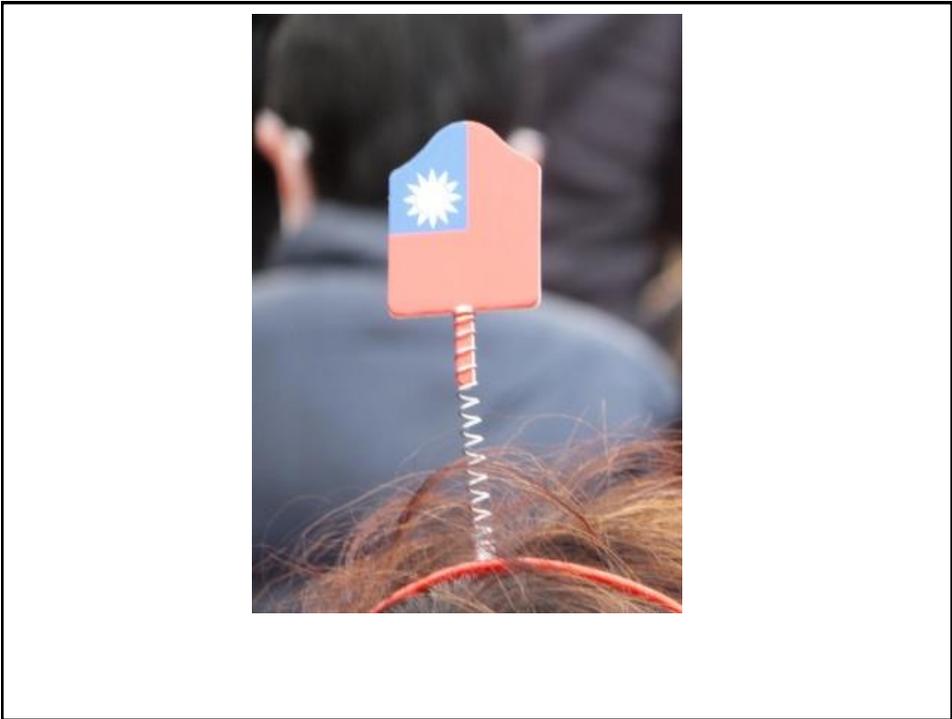
②勝敗を決する要因となった「92年コンセンサス」

③中国は国民党を「支援」

62



63



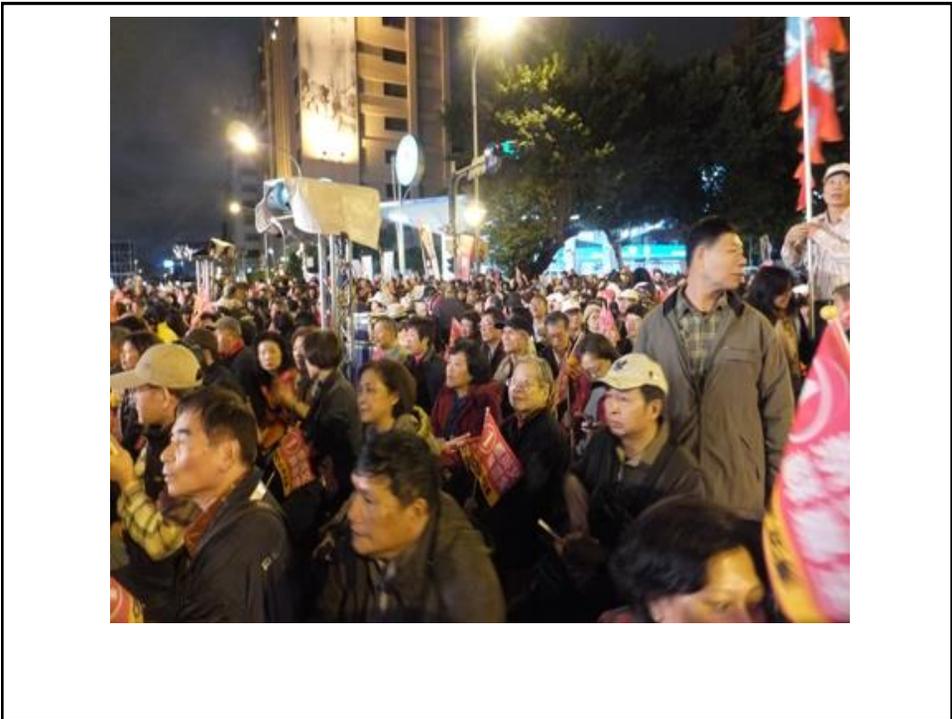
64



65



66



67



68